

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2572300024
法人名	社会福祉法人 近江ちいろば会
事業所名	グループホーム ぼだいじ
訪問調査日	平成 22 年 3 月 12 日
評価確定日	平成 22 年 3 月 31 日
評価機関名	ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2572300024
法人名	社会福祉法人 近江ちいろば会
事業所名	グループホーム ぼだいじ
所在地	滋賀県湖南市菩提寺327番地16 (電話) 0748-74-4144

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成 22年3月12日	評価確定日	平成22年3月31日

【情報提供票より】(平成22年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 9 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 13 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	23,500 円
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 650 円
	夕食	600 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		1,600 円

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名
要介護3	6 名	要介護4	1 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢 平均	84.8 歳	最低 72 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	生田病院、小川診療所、藤本クリニック、小野歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体の近江ちいろば会はケアハウス、デイサービス、居宅介護支援など高齢者介護事業を展開している。当事業所は開設8年目を迎え介護福祉の専門家による設計の木造平屋建て2ユニットに利用者は生活している。近くに閑静な住宅街や公園、川、樹木など自然に恵まれ、散歩道から声掛けもできる環境にあり疎外感はない。利用者が主人公を謳う法人理念をベースに、グループホーム理念に沿って地域交流を積極的に実践している。リビングやベランダが広く常に中庭を眺められ居室も明るく利用者は穏やかな日々を送っている。敷地内の畑で野菜や草花を栽培し、積極的に外出支援するなど従来の家庭的な雰囲気を継続するよう努めている。人材育成に努め経験豊かな職員による行き届いたサービスを行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題であった地域密着の意味を含めた文言を理念に追記している。昨年からの利用者が通学道路に出てスクールガードを始めるなど実践面でも地域との交流を深めている。もう一つの課題であった運営推進会議も2ヶ月毎に開催するよう改善し毎回の議事録も完備している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が参加して自己評価を行い管理者がまとめて改善計画を立てている。自己評価の目的や効果を認識し利用者の介護サービスに活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し市職員、自治会代表、民生委員、利用者、家族代表、事業所幹部が出席している。会議内容は事業計画や活動報告、利用者の状況報告や家族との意見交換などを行い議事録も残している。ただし、議題として外部評価を取り上げていないのは今後の課題である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の健康状態や暮らしぶりのスナップ写真をレイアウトしたお便りを作成して家族に毎月送付している。金銭の請求と併せて法人の広報誌なども送付している。意見や苦情などは家族の来訪時に聞き取りをしたり、意見投書箱の活用や運営推進会議で意見交換するなど対応している。外部の苦情・相談機関は重要事項説明書に明示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し地域の夏祭りなどの行事に参加したり自治会主催の高齢者サロンには毎月数名が参加している。昨年からのスクールガードを開始して地域の人々からの声掛けや話をする機会も増えて住民との交流に努めている。地域主催の福祉講習会に職員が出向き、認知症に関する講座を担当するなど地域の理解を深めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの理念に地域密着を表現した「……ここ住み慣れたばだいで」を追記して更に地域に根ざし地域のの人々と共に生活していく方針をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に大きな文字で書かれた理念を掲示し年度計画書にも理念を表記するなど日常のケア実践につながるよう意識付けている。毎月の全員ミーティングで理念を常に確認し合い理念を念頭において日々のサービスを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、毎月自治会主催の高齢者サロンや地域の夏祭り行事などに参加している。昨年からは散歩を兼ねたスクールガードを始め地域の人と交流を深めている。職員が地域の講習会で認知症の話をして事業所の理解を深めるなど交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義を理解し、自己評価は職員全員が作成し管理者がまとめている。外部評価の改善課題も全員で改善計画を立てて具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し市職員、自治会代表、民生委員、利用者、家族代表、事業所幹部が出席し議事録も残している。事業所の運営や行事の説明および介護実態を中心に意見交換を行い要望は日々のサービス取り組みに活かしている。外部評価を議題として取り上げておらず議事録にも残していない。		サービス評価(自己評価及び外部評価)の内容報告と改善取り組みのモニタリングは運営推進会議の重要テーマであり、必ず議題として取り上げ議事録に残すよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から委託されている介護相談員が毎月2名来訪し利用者とは面談して状況を把握し、職員とケアの状態及び不安・課題などの意見交換を行いサービスの向上に活かしている。行政の担当課や地域包括支援センターと日常のコンタクトや連携は不十分である。		市の担当窓口と常に連携をとり理解や協力を求め、問題解決を図ることも重要であり、市担当者との更なる関係づくりに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態の報告や職員の異動などの連絡事項を記述し毎月報告している。併せて日頃の暮らしぶりや行事に参加したスナップ写真を毎月家族に送付している。金銭管理は立替払いで領収書を添付して毎月精算している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会や運営推進会議に家族代表も参加し家族の意見や苦情を聞いている。玄関に外部評価書類の開示及び意見投書箱を設置して意見反映できるようにしている。外部の苦情相談窓口も重要事項説明書に明記し説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の全体ミーティングが2ヶ月毎にあり、日頃からも不満や意見を聞く時間を持つようになっている。勤続年数は5年以上の職員が多くやりがいを感じている。異動する場合は2ヶ月間の引継ぎ期間をとり利用者に影響が出ないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は個人別に目標管理、ターゲットプランを作成して教育研修を受講している。内容は法人内研修、階層別研修、各種委員会などがあり人材育成に熱心に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	甲賀地区グループホーム会や淡海グループホーム協議会に参加し、他の事業所との意見交換や研修会に出席している。同業者との交流を深め事業運営の諸問題の解決に向けた意見・情報交換を行いサービスの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用する前にグループホームに来てもらい利用者の様子を見て馴染みの確認を行っている。日常生活ぶりについては訪問して家族から聞き取りを十分に行った上でサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事についても利用者は職員と一緒に準備や後片付けを和やかに行っている。特に食器の洗い物は個人でやるように勧めている。利用者の得意とする書道を活かしてメニューを書いたり糸縫い絵や煮物料理など得意とするものを職員に教えたり共に感謝の気持ちで支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の生活の中から気付き及び本人の思いや意向を汲み取るように努めている。家族とも相談しながら意向把握に努め利用者本位の対応を行い希望により外食や居酒屋に行くこともある。日々の状況変化は個人別に記録しミーティングで情報を共有しケアに反映している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族から十分な聞き取りを行い利用者の生活歴を反映するようにしている。具体的なケアや介護内容は利用者、家族から思いや意向を把握し関係者の意見も反映した介護計画を作成し家族の承認を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の日々の状態や状況の変化に応じてその都度関係者と相談して毎月介護計画モニタリング表を作成している。これにより介護計画を毎月フォローできているので定期見直しは6ヶ月毎に行っている。	○	毎月モニタリング表を作成しフォローしていることは評価できるが、家族への説明、確認、承認の観点から3ヶ月毎の定期見直しを要望したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算事業所として医療機関と密接に連携を取り運営している。整髪は出張美容で対応しているが希望の店への送迎もしている。利用者の希望や家族の要望を聞いて買い物や外食に行くなどの送迎支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する医療機関で受診できるように支援している。かかりつけ医に数名が受診しており、家族の送迎を基本にしているが家族の依頼により通院支援もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年度2名の利用者を看取っている。重度化した場合に医師の診断により終末期に向けて家族と話し合い全職員で方針を共有している。契約時に看取りについての考え方は説明し家族の意向も確認しているが、運営上の観点から重要事項説明書に終末期対応について明記していない。	○	医療連携体制加算事業所として重要事項説明書に終末期対応の基本指針を明文化するとともに、看取り希望の有無に関わらず意向確認書にて署名確認する取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者にさりげなくやさしさと親しみを持って話し掛けや声掛けをしている。職員はミーティングの時にプライバシーに関わる認識を持てるように確認合っている。ただし、個人情報に関する書類が鍵の無いオープン書棚に保管され、家族と面談も行う部屋内に置かれている。		現在の場所に保管するなら、個人情報の書類関係は施錠の出来る書庫に保管するよう望みたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の生活ペースに合わせて縫い物、編み物の趣味や歌を歌ったり本人の希望に応じている。体調に配慮しながら散歩や買い物、地域行事への外出や一泊旅行に行くなどの支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はケアハウスから食材の供給を受けて各ユニットで調理しているが時々調理済みの配食もあり職員も一緒に食べている。朝食は食材から調達している。献立に利用者の希望をできるだけ取り入れ、外食に出掛けることもある。配膳や後片付けは一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は本人の希望に沿って時間や回数を配慮している。入浴できる時間は毎日8時から19時までを基本に入れるように対応している。入浴を嫌う人でも週2回以上入浴してもらうよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎月モニタリングを行い利用者の張り合いや喜びにつながるように常に話し合っている。野菜・花づくり、裁縫、編み物、洗濯物を取り込んで畳んだり、掃除、メニュー書きなど好きなことや得意分野を活かして楽しんでもらえるような支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周囲に公園や散歩道があり散歩する地域の人々との交流を深めている。天気の良い日は4～5名がスクールガードに出掛けて外出も兼ねて地域の人々と交流を深めている。季節に合わせて花見、イチゴ狩り、花火、左義長などの見学に5～6名ずつ交代で送迎支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの大切さを認識し、8時から20時は鍵をかけず利用者の自由な暮らしを支援している。利用者の行動は職員が絶えず見守り、声掛けを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時マニュアルや緊急連絡網は整備されている。災害時の緊急避難場所も決めてあり、事業所内で春と秋の年2回避難訓練と消火器訓練を実施している。訓練のうち1回は消防署の立会いによる指導を受けている。		緊急連絡網の中に地域の自治会も加えて災害時に近隣の人々の協力を得られるよう望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立調理は調理師が行い栄養管理をしてケアハウスから配食している。職員も一緒に食事をとりながら一人ひとりの状態を把握している。水分は医師からの要チェック者には水分摂取量を毎日把握し記録して経過を観察している。		高齢者に対する水分の確保は重要であり全員の水分摂取について確認することを望みたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋の2ユニットで共用の空間が広く取っており、各々に中庭を配して広く長いベランダや広い廊下を設け、ゆとりを感じる造りになっている。どこからでも中庭が見えて自然の明かりや季節が感じられる草木があり、居ながらにして安らぎを感じられる。廊下から居室への段差は意識的に造られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得てできるだけ使い慣れた家具や寝台などを持ち込んでいる。写真や飾り、仏壇を置いている居室もあるなど家庭と同じ雰囲気ですぐ居心地よく過ごせる工夫をしている。居室に暖房設備はあるが冷房設備はない。理由は高齢者の冷房による弊害懸念と冷房のあるリビングでの共同生活を促進するためである。		